

# 促成ピーマンにおける ハイワイヤー・養液栽培の仕立て方法

摘心・つる下ろしとともに25t/10a以上の収量が得られ、総作業時間は同等

## 背景・目的

- 産地の維持・拡大を目的に、次世代に向けた高い生産性や省力化等の新しい技術が求められています。
- トマト等では、ハイワイヤー・養液栽培による多収化技術が確立されており、ピーマンでも同様の技術確立が期待されています。そこで、25t/10aを目標にハイワイヤー・養液栽培（写真1）における仕立て方法を検討しました。

## 成果の内容

- 摘芯仕立て、つる下ろし仕立てともに、目標である25t/10aを超える収量が得られました（表1）。
- 総作業時間は同等でしたが、誘引作業時間はつる下ろし仕立てが多く、収穫作業時間は摘芯仕立てが多い傾向でした（図1）。

表1 収量

(10aあたり)

区名	総個数 (千個)	総収量 (t)	A品			可販果(A+B)			規格外品	
			個数 (千個)	重量 (t)	A品率 (%)	1果重 (g)	個数 (千個)	重量 (t)	可販果率 (%)	重量 (t)
摘芯・4本(慣行)	1,011	28.7	724	21.9	76	30.2	877	25.7	90	3.0
つる下ろし・2本	1,294	36.4	925	27.6	76	29.8	1,127	32.6	89	3.8

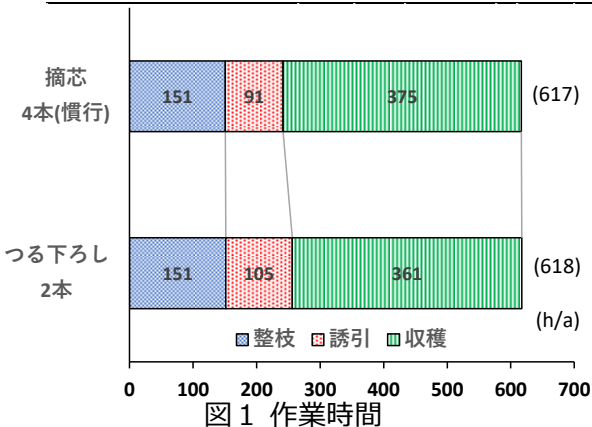


写真1 栽培の様子

## 成果の活用方法(又は期待される効果)

- ピーマンの大規模経営に向けた参考データとなります。
- 普及対象地域・面積 県内促成ピーマン産地約220ha

## 留意点

- 総合農業試験場内硬質プラスチックハウスでの炭酸ガス施用や温湿度管理条件における単年度成果となります。
- 年次変動の把握するため、仕立て方法についての比較試験を再度行います。
- 栽培期間：2020年8月27日～2021年7月31日